

Yuzuru Hanyu ICE STORY 2023 "GIFT" at Tokyo Dome

セットリスト&プログラム概要

1.オープニング

M「そこに幸せはありますか？
誰かと繋がっていますか？
心は壊れていませんか？
大丈夫、大丈夫。
この物語とプログラムたちはあなたの味方です。
これはあなたへ、あなたの味方の贈り物。」

2.「火の鳥」演技

スクリーン映像で羽生選手の歴史を追う。
その後、詩を綴っていくペンにモノローグがかぶる。

M「気がついたら、世界があった。
息をしていた。
自分は、なんだろう。
でも、名前はあった。
好きなものもあった。
大好きなものもあった。
僕は、その大好きなものになりたかった。
僕にはできないことがたくさんあった。
でも、少しずつ、少しずつ、できることが増えた。
その度に、世界があつたかくなつた。
その世界が大好きだった。
だから、もっと、もっと、あったかくなりたくて、
できるようになりたくなつた。」

火のイメージのスクリーンの前から、羽生結弦選手がクレーンから降りて登場。
衣装には莊厳な赤い翼を携えている。
演技はまさに伝説の序章。
リンクの周りの火の演出がイメージをもり立てる。
演技が終了すると、スクリーンにイメージ映像。

羽生選手のシルエットが時計の針になって、時間が巻き戻される。

M「僕はもっとできるようになった。

世界があったかくなるのが大好きだった。

その世界はやさしい言葉で溢れていた。

『すごい！』

えらい！

よくできたね！』

ある日、その世界で一番あったかくなれる場所を見つけた。

それは僕の夢になった。

いつか叶うのかな？

『きっと叶うよ』

心の中から聞こえてくる。

どうしてそんなこと言えるの？

『だって君は叶えたいんでしょ？』

うん、僕は叶えたい。

『だったら絶対に叶うよ。

君はできないことが嫌いだから』

そう言って、心の中が聞こえてきた不思議な声が消えていった。

まわりにはたくさんの想いがあることも、

たくさんの命があることも、まだまだ気がつけなかった。

けれど、自然は大好きだった。

光を浴びて、水をキラキラと輝かせて。

ある日気がついた。

毎日同じようにそこにあるのに、

気がついたら一気に大きくなってて、

努力なんかそこにはなさそうなのに、

簡単に大きくなっていく姿に、少し羨ましさも覚えた。

僕だって、がんばってるのに、ずるい。

僕はどうしてうまくなれないんだろう。

草は言った。

『私はね、大きくなって花を咲かせるんだ！

そうするとね、世界があったかくなるんだよ』

いいな。全然苦しそうじゃない。

なんにもがんばってない。

僕はこんなにもがんばってるのに。

ねえ、なんてそんな簡単に夢が叶うの？

僕も叶えたい！

『それはね、太陽があるからだよ！

力をた一くさんくれるんだ！』

太陽か・・・いいなあ。

僕は太陽みたくなりたい！

太陽みたいにみんなに力をあげて、

みんなが世界をあったかくするんだ！

でもどうして太陽はずっといてくれないんだろう。

夜になると暗くなっちゃう。

そっか、月が悪者なんだ。

やっつけてやる？！

おーい、月！何で太陽を隠すの？

『ぼくは太陽が大好きで大切なんだよ？』

あれ？嫌いだから隠してるんじゃないの？

『太陽だって、ずっと力をくれるわけじゃないんだ。

ぼくは自分では光れないけれど、太陽が光をくれるんだ。

そのおかげでこんなこともできるんだよ？』

月の周りには虹ができた。

とてもきれいで、すごく儂くて。

心があたたかいもので満たされた。

そして同時に気がついた。

月にはたくさんの傷があること。

とっても痛そう、とっても辛そう。

痛くないの？どうしてがんばれるの？

『夜になると、みんなが見てくれるんだ。

辛いところなんてないよ。これが僕だから』

すごくかっこいいって思った。

僕も月みたいに、強くてかっこよくなりたいって思った。

それから何度も辛くて、悲しくて、やめたくなつたけど、がんばった。

でもできないことばかり。

やっぱりできない。でもがんばる。負けない。

ずっとずっと暗いトンネルの中みたいだった。

でもそのトンネルには光が入ってくる場所がいくつもあって。

朝になって、夜になって、また朝になって、すぐ夜になる。

そんな毎日だった。

そのトンネルを進むたび、一人になっていった。

でもそれでよかった。

大切なものがあるんだ！

夢という光のかけら。

ずっとずっと大切に持っているものと、一緒に進むんだ。
ずっと前に、前に、前に！
走って、走って、全力で進んだ。
気がつくと、大切なものがしかなくなっていた。
それは、さみしいこと？
『ううん、楽しい！』
そうだよね、楽しいよね！
なくしたくないものを、ずっと大切にして、
ぎゅって掴んで、絶対に離さないんだ。
だって、叶えたい夢があるから！
それが、かっこいいから！
それが、僕なんだ！」

3. 「ホフレガ」演技

長めのイントロがあって羽生結弦選手登場。
水面を揺蕩うような演技に、エアリーな 3F。
さらに星空の中のコレオに、世界観が心に迫る。

その後、スクリーンに目をつぶった羽生結弦選手が映し出される。
モノローグ途中にイレブンフレイ登場。

M「それが僕なんだ。
僕なんだ。
ぼくなんだ・・・
涙がこぼれ落ちた。
まわりが一気に崩れていく。
何もできないまま、ただ怖いだけで、
たくさんあった草も花も消えていた。
太陽がいつのまにかいなくなった。
月もない。
真っ暗。
なんで？
何が起きたのかわからない。
だって、あんなにキラキラしていたんだ。
だって、あんなにたくさんの命があったんだ。
だって、だって、だって・・・

あんなにも大切なものと一緒に成長してきたんだ。
大切なだけ選んできたのに、どこに行ったの？
どうしてなくなったの？
大切にしてたのに、なんで？
独りは嫌だ。
寂しくなんかなかったはずなのに、悲しくなんかなかったはずなのに、
独りなんか怖くなかったはずなのに、
また涙がこぼれ落ちた。
ずっとずっと、隠していた涙。
がんばってきたのに、どうしてなくなるの？
とてもとても寒い夜。
空っぽになってしまった大切なものの。
独りぼっちでいると、
空から、光が、大切なものを、そっと照らしてくれた。
『大丈夫だよ。
みんないるよ。
なくなつてない』
その光はまた大切な命をくれた。
そしてまた・・・
草木はキラキラと輝き始めた。』

4. 「あの夏へ - 千と千尋の神隠しより」演技

白い衣装に包まれた羽生選手の幻想的なやさしく美しい演技。
それは、まるでハクかと思わせる。

その後、プロジェクションマッピングに水滴のイメージ。
そこにイレブンフレイの踊り。

M「満天の星空が照らしてくれた。
大切なものは空っぽじゃなくなった。
光たちは言ってくれた。
『君には君にしかできないことがあるよ。
それを見たいんだ』
ありがとう、ありがとう、ありがとう。
大切なのもとも日々はまた始まる。
夜が明けて、朝になった。』

ずっとずっと、霧の中、少しずつ、少しずつ。
でもちゃんと前に進んでいるのかな。
『大丈夫、ちゃんと進めているよ』
風が前から吹いてくる。
進んでいる方から強く、でもどこかやさしく吹いてくる。
風が教えてくれる。
『君が進む方は、とても大変だよ』
でも、歩みを止めない。
僕はわかってる。
あなたが迎え風だとしても、あなたはやさしい。
たとえ今は苦しくても、きっと寒い日にはあたたかくしてくれる。
暑い日には冷やしてくれる。
それが、あなたでしょ？
風が強く吹いている。
その風は微笑んでいるように思えた。
だから、怖くない。
風の強い方を選んで進んでいく。
そんな僕に、風が言った。
『そのまま進んでおいで。
君の夢は、叶うよ』
いつの間にか霧は、風が飛ばしてくれた。』

5. 「バラ 1」 演技

最初はスクリーンイメージ映像の演技。
序章後に羽生結弦選手が登場して、続きの演技が始まる。
それは究極と言える美しさ。
音楽との一体化が場を支配する。

スクリーン映像は、水の中にいる羽生結弦選手。
まるで記憶を辿っているかのよう。
そこに子供の頃の動画から始まり、次にアニメーションイメージ動画で成長をたどっていく。

M「君の夢は叶うのは、誰かのおかげじゃない。
ずっと君が、今の君を選んできたんだよ。
ほら、嬉し涙が出るね。
その涙が出たのはなぜ？」

その涙を辿っておいで。
探しておいで。
涙がどこから来たのかを。」

6. 「オトナル」演技

「オトナル」の楽曲が演奏される。
その演技はすべてスクリーン上のイメージアニメーション。
そこにモノローグがかぶる。

M「たくさん戦ってきたよね。
たくさん嫌なことしてきたよね。
たくさん我慢したよね。
たくさん悔しくて泣いたよね。
全部君が選んできた日々。
これはいつの傷だろう？
ちゃんとさふたになってる。
でも、治ってない。
ずっと待ってたんだよね。
大丈夫、もう、叶ったよ。
あなたのおかげで強くなったんだ。
治っていいよ。
ありがとうね。
すべてこの時のために、この瞬間のために、この僕のために、
がんばってきた。
選んできた。
でも、もう少し跳べるよ。
もう少しがんばりたいんだ。
今まで選んだ日々には、
草も、花も、太陽も、月も、命たちも、星の光たちも、
たくさん一緒にいたから、もう少しみんなといたい。
一緒にいたいんだ。
願いが叶うなら、もう少しみんなと飛びたい。
もう少し、もう少し・・・」

モノローグ後にスクリーンにテロップ。
「2022.02.20 Beijing Olympics」

そこからカンターが動き、「2023.02.26」で止まる。

7. 「ロンカフ」演技

突然、照明が試合モードに変わる。

そのリンクは「6分間練習」の舞台に。

羽生選手が練習開始すると、経歴＆「From Japan YUZURU HANYU」のコール。

そしてジャージを脱ぐと、ロンカフ衣装。

練習中にドリンクを飲んだり、イメージトレーニングもして、ルーティーンをこなす。

「From Japan YUZURU HANYU」のコールでスタートポジションに。

高まる緊張。

そして演技スタート。

北京五輪でミスした4Sを綺麗に決めて会場が沸く。

続いて4T3Tは堪えたが、最後の3Aは極上。

演技終えると、会場から拍手喝采＆スタオベ。

感極まる羽生結弦選手。

丁寧に挨拶をしてリンクを退出すると、「只今より製氷のため40分間休憩します」のアナウンス。

8. 「レミエン」演技

2部が始まると、「Let's Go Crazy」の生バンド演奏。

その後に羽生結弦選手が登場。

そのまま「レミエン」演技が始まる。

舞台は電飾ピカピカのド派手演出の中、ノリノリ演技で会場は絶頂ムードに。

スクリーンとプロジェクションマッピングとイレブンフレイの踊りを交えた演出。

M「楽しい、たのしい、たあのしい。

楽しいよね？

楽しくないわけない。

楽しいでしょ。

ねえ、楽しいでしょ？

『うん、楽しい(機械音)』

(スクリーンにはERROEのテロップ)

そうやって笑う。

笑うその顔を作ったのは誰だ。

そいつは誰なんだ。

誰のための誰なんだ。

『できない、がんばります(機械音)』

本当にできると思ってるの？

自分にできると思ってるの？

わからない。

どんな根拠がある？

『だって、できなきゃ意味がないでしょ？

できるのが僕だから。

できないのなら、できるまでやるんだ(機械音)』

そっか、自分にはできると思いこんでいる。

違う、そうじゃない。

できることにしたいんだ。

できない自分なんか存在する意味がないんだ。

必要・・・ないんだ。

そっか、いつだろう、好きなことをして楽しくて、

でもそれだけじゃいられなくなったのはいつだろう？

好きでも楽しくもなくなってしまったのはいつだろう？

苦しいが募りすぎて、頭がおかしくなる。

何も考えたくない。

何もかもうるさい。

やれる以上のことを行っている。

いつもいつも、ずっとずっと、できないことをできるようにしてきている。

やっているんだよ、いつも。

自分のこと超えているんだよ。

こんなにがんばっているのに、こんなに尽くしているのに。

ここまで來るのに、どれだけの時間がかかった？

どれだけの努力をしてきた？

自分でもわからない。

できなきゃ意味がない。

なら、今の僕は必要がないのか？

本当にそうでいいのか？

『やらなきゃ、できるまでやらなきゃ(機械音)』

ただ暗闇に打ち勝ってきた。

誰のおかげでもない。

ただ時間と体力と精神を削って、

たた心臓と心のエネルギーを消耗して、ここまで來た。

ここまで挑んできたんだ。
綺麗ごとなんか一つもなかった。
こんなにも、こんなにも、こんなにも苦しんでいる。
こんなにももがいている。
運命にひたすら抗ってきた。
誰も傷つけないように。
誰かが傷ついてしまわないように。
誰も失望してほしくない。
僕のあるべき姿になるために。
だから、強くなるんだよ。
僕が、僕であるように。
こんな僕のこと、誰がわかる？
一生わからない。
わからない。」

最後に「GAME OVER」のテロップ。

9. 「阿修羅ちゃん(by Ado)」演技

心の叫びを訴えるような弾ける演技。
イレブンフレイもリンクを囲んで一緒に踊る。

演技が終わると、羽生結弦選手の表情がスクリーンに映し出される。
そこから羽生結弦選手の心の中にいる二人の会話のモノローグ。

M「もう疲れた。
疲れて、もう動けない。
動きたくないなんかない。
『できるよ、がんばれるよ』
もうがんばったでしょ？
がんばったよ。
休みたい、もう疲れた。
休みたい。
『弱い心だ』
強いフライドがいつも邪魔をする。
『強いよ、どんなことだって乗り越えられるよ。
全然怖くなんかない』

怖いよ、なにもできやしやしない。
できない僕は独りだ。
『ちゃんといるよ、振り返ってよ。
みんな待っているよ』
動けない、怖い。
僕はなにもできない。
(音楽がマスカレイドのインストに変わる)
『うん、知っているよ。
でも届けたいんでしょ？
動けないけど、動きたいんでしょ？』
僕は、できない。
けど・・・
『全部知っているよ。
誰だと思っているの？』
誰？
『僕はあったかい世界。君』
あったかい世界？
こんな僕じゃなれない。
できない僕じゃ、なれない。
僕にはなにもない。
足りないものしかない。
その足りないものを望んだら、僕じゃないものを見つけた。
僕はそれになるために。
僕はみんなに、僕に、求めてもらいたい。
ちゃんと見てもらいたい。
君に手を伸ばす、君になりたい、と。
こんなにもできない僕でも、君となら。』

最後に音楽が「オペラ座」に変わる。

10. 「オペラ座」演技

スクリーンに揺れるシャンデリアが映し出される。
リンクの周りには火をともす演出があり、そこは地下室のイメージ。
そして「オペラ座」演技が始まり、ペルソナの世界と葛藤を見事に表現。
まさに物語のクライマックス。

その後、スクリーンに羽生結弦選手が歩く姿が映し出される。

M 「心を全部閉じ込めたふりをして、誰にもわかられたくない強がって、
どこにも行きたくない、なにもしたくないとふさぎ込んで、

でもそこにドアがあるのはどうして？

それは、君自身がついているドアだよ。

カギ穴なんかなくて、ドアノブも壊して、

釘を打ち込んで、ボロボロになってでも、

そこにドアを取り付けてるのは、君自身だよ。

君は、特別じゃない。

『僕』は、特別なんかじゃない。

誰よりも弱くて、ひび割れてて、

たとえ息が止まったとしても、世界は止まらずに進む。

君も『僕』も、特別なんかじゃない。

だってさ、みんな、一人一人の生命だから。

みんな、一人一人の世界の色があって、

僕らには僕らの世界の色あって、

いつのまにか君と『僕』とだって、見えている色は変わってる。

『僕』がここから見ている間に、

君はたくさんたくさんいろんな色をつけてきたよね。

だから、今の君は、今の色でいいんだよ。

がんばってがんばって、作り上げてきたよね。

簡単に壊れてしまうけれど、簡単に汚れてしまうけど、

それが、君の色だから、

かっこわるくて、傷ついて、隠していくしかなくて、

涙でよれよれになってるけど、

大切にしてきた、君だから、

大切な、君という、本当だから。

君が大切にしなかったとしても、

『僕が大切にするよ』

『もう、大丈夫だよ』

『でも、もう時間なんだ』

声を枯らして叫ぶ。

行かないで、消えないで、独りは嫌だ。

誰も傷つけない。

ちゃんと完璧でいるから、

ちゃんとできる僕でいるから、

独りになんかしないで。

「時間はもうないよ」
「もうお別れの時間だよ」
「ずっと一緒にいられないんだ」
「永遠なんてない」
「僕は、君の『夢』だから」
「夢は、覚めなきゃ」
「いってらっしゃい」
繋がっていた鎖は、粉々に散って、自由になった。
鎖が外れた先に何があるの？
何一つ残っていない。
『夢』は、終わった。
振り向かないで、歩き出さなきゃ。
もう思い出せないよ。
進まなきゃ。
頭が痛む。
心が痛む。
消えてしまったのはなんだっけ？
なんで消えてしまったんだっけ？
ただ頬に涙がつたう。
こんな僕だった。
何もできない僕だった。
ただひたすらに、独りだった。」

11. 「いつか終わる夢 - FF10 より」演技

布切れを背負って羽生結弦選手登場。
人の影と文字の羅列が印象的なプロジェクションマッピング。
自身の孤独や葛藤にどんどん迫っていく演技。
しかし、ラストにプロローグであったリングがGIFTではなくなっていた。
夢を諦めない道を選べた？

その後、スクリーンの中で羽生結弦選手が登場して椅子に座る。
そして表情がアップになってモノローグ始まる。

M「独りのはずなのに、
真っ暗なはずなのに、
終わったはずなのに、

なんでこんなにも明るい光に照らされるのだろう。

眩しすぎて、直接見ることなんてできない。

僕を見る権利なんてない。

それでも、星たちがキラキラと輝いて、照らしてくれた。

『がんばれ、大丈夫だよ』

太陽の光を浴びた月も光っていた。

その凜とした光は、とてもかっこよかった。

僕の行く道を光で導いてくれた。

『ちゃんと光を、受け取れるよ』

その道には花が咲いていた。

まっすぐ生きている姿があった。

『私たちがいるよ』

少しだけ月の道を進むと、前から風が吹いてくる。

その風はとてもやさしく、あたかかった。

『ずっとあなたは、向かってきた』

『そんなあなたを、私たちは知っているよ』

いつのまにか感じなくなっていたみんなが、そこにはいた。

そのことに気がつけなかった。

でも、僕は、独りだ。

どうしても独りだ。

終わってしまった大切なものの、消えてしまった大切なものの、どこにもない大切なものの。

君がいれば、何だってできる気がしていた。

毎日、苦しいことがあって、楽しいことがあって、

笑って、怒って、泣いて、寂しいことも、悲しいこともあって、

でも、ずっと当たり前のようにあった。

ずっとそばにいてくれた大切なものの。

なんだってがんばってきた。

ずっと独りだった。

違うよ、独りは選んできた。

でも、ずっとずっと一緒にいたんだ。

大切にしてきたんだ。

でも、いつのまにか大切にしなくなった。

できない自分も、君のせいにして、悲しみだけをぶつけて、傷つけて。

苦しいのは『僕』じゃなくて、苦しいのは『僕だけ』じゃなかった。

苦しいのは独りになってしまったこと。

ともに歩めなくなってしまうこと。

いつもともにいかった。

これからもともにいたかった。

僕は独りだ。

『独りじゃない』

君の声が聞こえたような気がした。

『独りなんかさせない』

『ずっとずっと、忘れないで』

『寂しい気持ちに、蓋をしないで』

『君の中の寂しいを、ちゃんと見てあげて』

『僕は知っているよ、君はいつも強い』

『けど、今はいいんだよ』

『辛くて、泣きそうになつていいんだよ』

独りになって気がつけたんだ。

独りなんか、させてくれやしない。

みんないる。

こんなにいっぱいいる。

星たちの光が一段と輝きながら、一つになった。

僕は知っている。

ちゃんと受け取ろう。

独りじゃない。

ただいま。

『おかえりなさい』

僕の夢、みんなからの GIFT。」

12. 「Notti Stellata」演技

スクリーンと会場に満天の星空の中、たくさんの羽が舞う。

ひたすら美しい希望を感じる演技。

羽の中に過去の演技も映り込む。

羽生選手が去っていく姿に最終コンセフトモノローグがかぶる。

モノローグの途中で羽生結弦選手を載せたゴンドラが上がっていく。

M「僕の行く道。

なにがあるかなんてわからない。

僕らのめざす先に、なにが待っているかわからない。

でも、続けていこう。

走って行こう。

GIFT を届けに行くために。

☆

元気に毎日すごしていますか?
辛い気持ちになっていませんか?
一人で悲しくなっていませんか?
どこにいても、いつだっていいです。
疲れて心が干からびた時に、帰ってきてください。
こんなくだらない物語ととておきの物語がずっとここにいます。
あなたのこれまでと、これからのお話のために」

テロップにペンで「Fin」と書かれて公演終了。

13. エンディング「僕のこと(by Mrs. GREEN APPLE)」 演技

音楽はスクリーンに映し出されたアイスリンク仙台でのワンカメ練習演技映像にかぶせる。
そこにエンドロールが流れる。

その後、羽生結弦選手がリンクに登場。

羽「皆さん、GIFT どうでしたでしょうか?
えー、本当に一生懸命がんばさせていただきました。
そして、またこれからアンコールとして、もうちょっとだけ演技をさせていただきます。
まずはこの東京ドーム ICE STORY GIFT を作り上げてくださいました、音楽の東京フィルハーモニー交響楽団の皆さん。
ピアノの川田さん、マエストロの栗田さん、そして人間ならではの演出を加えてくださいましたイレブンプレイの皆さん。
また、こちらにいらっしゃいます、ギフトスペシャルバンドの皆さん。
そしてそして、このGIFTの音楽総合監督を務めてくださいました、武部聰志さんです。
大きな拍手を。
本当にありがとうございました。」
武「そして、そして」
羽「えっ?あれ?」
武「そしてそして、今までですね、本当に練習を積み重ねて、深夜まで毎日練習を積み重ねて、今日ここまで滑り切りました、羽生結弦。」
羽「あー、ありがとうございます。台本に、台本にこんなことなかったじゃないですか?
なんかもう武部さんに話し振った時に帰ろうと思ってたんですけど、全然開かないんですもん、ここ(笑)。」

びっくりしました(笑)。」

武「あと今日1日だけのためにアイスリンクを貼って、セットを組んでくださった、そして演出の MIKIKO 先生はじめ、本当に大勢のスタッフが力を尽くしてくれました。

スタッフに大きな拍手を。」

羽「本当にありがとうございます！！！（と言って上を見上げる）

では武部さんよろしくお願ひします。」

武「本当に彼の努力、彼の本当に演技から、僕らも勇気をもらって、きっと皆さんもそうでしょうけど、すごく力をもらいました。

えとー、ま、その気持ち、羽生くんの気持ち、そして我々の気持ちを込めてですね、今日『GIFT』という曲を作つてまいりました。

羽生くんが次の演技の準備をね、している間に、その『GIFT』という曲をぜひ聴いていただきたいと思います。

よろしくお願ひします。」

オリジナル曲「GIFT」演奏が披露される。

曲の最後に、演奏がユーミン音源の「春よ、来い」に変わる。

14. 「春よ、来い」演技 [アンコール]

演奏が清塚さん音源の「春よ、来い」に変わって、羽生結弦選手がアンコール演技。

イナをやりながら幸せそうな笑顔が印象的。

羽生結弦選手が退出すると、場内に「SEIMEI」の音楽が流れる。

15. 「SEIMEI」演技 [アンコール]

場内に「SEIMEI」の曲が流れると会場は歓喜に沸く。

羽生結弦選手が再び登場し、渾身のステップ披露。

場内拍手大喝采。

16. リンク周回 「水平線(by back number)」

一度去って三度登場。

手を振って、「ありがとうございました」と感謝の言葉を何度も繰り返しながらリンク周回。

羽「本当に素敵な演奏をありがとうございました。
MIKIKO 先生たちあちらにいます。大きな拍手を。
素敵な演出をありがとうございました。
はあはあ(息遣い)
そして会場に来てくださった皆さん、配信で見てくださってる皆さん、
皆さんがいて GIFT がつかめています。
本当にありがとうございました。
正直、ここまで来るように、めちゃくちゃ辛かったです。
めちゃくちゃがんばって練習してきました。
練習したことが報われねーなと思うこともいっぱいありました。
皆さんの期待に応えられるか本当にわからなくて、辛い時期もありました。
誰の心にも残らないことも、目に焼き付くことがない日々も・・・
でも、やっぱ、スケート好きで良かったです。
(イーグルをしながら)今日は本当にありがとうございました。
今日という日が皆さんの人生にとって、
今日だけでもいいんで、
記憶の中に残って、辛い日々の中で、少しでも帰れる日々となりますように。
帰れる記憶となりますように。
本当にありがとうございました。」

最後に・・・

羽「ちょっとだけ、ちょっとだけ静かにしてくださいね、がんばるんで(笑)」
そしてマイクを外す。

羽「ありがとうございました！！！」

拍手大喝采で公演終了。